

● 露「ガスプロム」社による対ウクライナ天然ガス供給停止問題の波及

## A．主な動き

### 1．経済

#### ▼ 露「ガスプロム」社による対ウクライナ天然ガス供給停止問題の波及

・5日、「ナフトガス・ウクライナ」社は、露「ガスプロム」社の子会社「モルドバガス」社が1日より「ナフトガス」社との合意なしにモルドバを経由するガスパイプライン「アナニエフ・ティラスポリ・イズマイル」からルーマニア、ブルガリア、トルコ、ギリシア、マケドニア向けトランジット用ガスを1日当たり1000万立米抜き取っているとして批判。

・6日、ドドン第一副首相兼経済貿易相は、モルドバは2006年の「ガスプロム」社との合意に基づき規定された量及び価格でガスを需要している旨発言。

・モルドバ・バサ通信は、「モルドバガス」社の情報筋の話として、「ナフトガス・ウクライナ」社はモルドバ南部を通過するブルガリア、トルコ向けのガスパイプラインへのガス供給を停止したが、モルドバはモルドバ北部を通過するガスパイプライン「アナニエフ・チェルネウツ・ポゴロチェニ」でガス需

要を賄っているため、モルドバ国内のガス需要には影響がない旨、バルカン諸国向けのガスパイプラインからガスを抜き取っているとの「ナフトガス・ウクライナ」社の主張は根拠がない旨述べたと報道。

・6日、グレチャニ首相を議長とするモルドバ政府非常事態委員会特別会合が開催され、ウクライナ経由バルカン向けの天然ガス供給が完全に停止したことを受けて、備蓄されていた21,000トンの重油を天然ガスの代わり使用する決定がなされた。同首相は、2つの火力発電所のために備蓄重油は十分確保されており、近日中にエネルギー源を天然ガスから重油に移行される旨述べるとともに、電力及びガスの使用を控えるよう呼びかけた。またグレチャニ首相は、プーチン露首相及びティモシェンコ・ウクライナ首相宛にガス供給を再開するよう求める書簡を発出。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)